

Japan
Handball
Association



<input type="checkbox"/>	社会人
<input type="checkbox"/>	学生
<input type="checkbox"/>	高専
<input type="checkbox"/>	高体連
<input type="checkbox"/>	中体連
<input type="checkbox"/>	小学生

<input type="checkbox"/>	全国大会
<input type="checkbox"/>	ブロック大会
<input type="checkbox"/>	都道府県大会

<input type="checkbox"/>	男子
<input type="checkbox"/>	女子

試合 番号	男32
----------	-----

年月日	2024 年 3 月 26 日 (火)
大会名	令和5年度 第47回全国高等学校ハンドボール選抜大会 Presented by MIZUNO

公 式 記 録 用 紙

A	茨城県立藤代紫水高等学校						神戸国際大学附属高等学校						B		
都道府県	岐阜県		市町村	岐阜市		会場	岐阜メモリアルセンター で愛ドーム・ふれ愛ドーム						回戦	3回	
前半	A	B	最終 結果	A	B	第1 延長	A	B	第2 延長	A	B	7m追加 コネクト	A	B	
7m得点/総数	A		チームタイムアウト						チームタイムアウト			B	7m得点/総数		
	2/2	1	2	3					1	2	3	0/0			
		2907							1152						

No.	藤代紫水高	G	W	2'	D	DR	No.	神戸国際	G	W	2'	D	DR
1	江黒樹						1	中野純志					
2	赤穂歩希			1			2	松森維吹					
3	藤井悠輔	5					3	岡優隼	4				
4	大友克海	6		1			4	間崎隼介					
5	大橋真人	7					5	吉岡俊					
6	栗山權世						6	湯浅大輝					
7	山崎琉偉	1					7 c	石原幸樹	3				
8 c	小久保穰	2					8	大西航永	1				
9	本橋仁						9	山本一築					
10	太田晴斗	6					10	神保蓮	1				
11	貝塚遥輝						11	打田宇宙	5				
12	上西光生						13	吉田蓮	9		1		
13	渡辺晶						14	田宮海輝	1				
14	熊谷継	8					16	竹裏功清					
15	大島透弥												
17	篠内崇人	1											
A	小倉慶輔						A	高橋裕稀					
B	滝川一徳						B	市原太基					
C	会田亮祐						C						
D	篠内克行						D						

A	チーム役員 A 署名	B
---	------------	---

特記事項

レフェリー	安藤 太貴	河野 拓也		
T D	真鍋 友里絵	後藤 拓也		
MO	森 裕太			

得点(G),警告 (W),退場(2),失格(D),報告書付き失格(DR)特記事項に報告書として内容を記入

試合 番号	32	男子 [③]
----------	----	-------------

令和5年度 第47回全国高等学校ハンドボール選抜大会
Presented by MIZUNO

試合結果・戦評報告書

競技日	3月26日 (火)	会場	岐阜メモリアルセンター で愛Bコート		
種別	男子	回戦	3回戦		
Aチーム名			Bチーム名		
茨城県立藤代紫水高等学校			神戸国際大学附属高等学校		
得点合計	小計	period	小計	得点合計	
36	21	前半	10	24	
	15	後半	14		
		第1延長前半			
		第1延長後半			
		第2延長前半			
		第2延長後半			
		7mTC			
戦評		記載者氏名	山岸 岳大		
<p>藤代紫水のスローオフで試合開始。開始1分、藤代紫水がNo.5大橋のステップシュート、No.3藤井のポストシュート、No.10太田の速攻で3連取。神戸国際は4分にNo.3岡の速攻で1点を返す。神戸国際は必死に食らいつくが、再び藤代紫水の連取で点差が広がり、11分に9対3となったところで神戸国際がタイムアウト。その後も藤代紫水の高さあるDFに苦しむ神戸国際は、15分にNo.11打田、No.13吉田の2連取、20分にGKNo.1中野のファインセーブからの速攻を含めた2連取で反撃するが、藤代紫水の連続速攻で点差を広げられてしまい、21対10で前半終了。</p> <p>後半は、1分、2分と藤代紫水No.5大橋の7mTで得点が動き出す。神戸国際はNo.3岡、No.11打田が果敢に飛び込んで得点を重ねていく。神戸国際は退場で一人少ない藤代紫水に2連続得点を許してしまうが、3連続得点で必死に追いかける。DFラインを上げて巻き返しを狙う神戸国際は、GKNo.1中野の連続セーブで勢いに乗りたいたところだったが、藤代紫水GKNo.12上西に阻まれてしまう。苦しい状況が続く神戸国際は、それでも足を使ってプレスをかけ続け、No.7石原のカットイン、No.8大西の速攻などで追いかけるが、36対24でタイムアップとなり、藤代紫水が勝利。</p>					